

令和6年度

「新時代に対応した高等学校改革推進事業」

指定校発表会 発表資料

兵庫県立御影高等学校
文理探究科

生徒が発信しています

文理探究科 note



兵庫県立御影高等学校長 沖 良宣
特色教育推進部長 橋本 淳史

1 学校概要



創立80周年を迎えた伝統校

神戸市の中心、神戸三宮駅から15分で本校正門にアクセス可能な交通至便な位置にある伝統校。地域からの信頼も厚く、3万人を超える卒業生を輩出。令和3年度には創立80周年を迎えた。平成19年度に設置した総合人文コースを改編し、令和6年度より普通科新学科（学際領域学科）文理探究科を創設。初年度の入試では、普通科新学科として県内1位の高倍率となった。

国公立大学 現役合格者 約45%

何事にも真面目に取り組む生徒が多く、10～15年ほど前に比べると、近年は国公立大学に現役で合格する生徒数が倍増。いよいよ現役で国公立大学に合格する生徒が全卒業生の約4～5割程度に。特に、長期休業中の補習や、国公立大学の2次試験対策、小論文・面接対策等、本校の教員が一丸となり、生徒の進路実現の支援にあたっている。

Copyright(C) Hyogo prefectural MIKAGE senior high school.

勉強も、行事も、部活も

令和2年度卒業生を対象とした学校生活に関するアンケートで、本校での生活の満足度は95%との結果が得られた。勉強にも、行事にも、そして、部活動にも熱心な生徒が多く、日々の高校生活は大変充実している。クラスや部活動で得られた友人とともに目標に向かえる雰囲気も、いつでも質問に応じてくれる経験豊富な教員の雰囲気も高評価。

みかげ魅力化プロジェクト

半世紀続いた伝統の制服を、多様性を鑑み、令和5年度入学生から変更した。また生徒からも要望があったトイレの改修工事を実施。令和4年度中に最新の設備が整った。そして、令和4年度には、文部科学省の普通科改革支援事業に、令和6年度には、高等学校DX加速化事業にも指定され、新たな取組に挑戦している。

2 文理探究科（学際領域学科）の概要

■ 総合人文コース（各学年1クラス40名・平成19年度開設）

【成果】

- ・ **地域の課題への関心**
- ・ **協働探究や発表への積極性**

【リソース】

- ・ 充実した**探究実践の経験**
- ・ さまざまな**連携機関の協力**

【課題】

- ・ **教育課程が文系のみ**の対応
→中学3年生段階で希望進路を絞る必要（令和3年度・定員割れ）
- ・ 地域での活動に重点を置く教育活動を展開しながら、
教育課程上の制約で、自然科学の視点からのアプローチがしにくい
- ・ **令和7年度には、すべての普通科コースの募集を停止**し、専門学科・普通科新学科・特色類型への改編を予定（県立高等学校教育改革第三次実施計画）

- ・ これからの**社会で求められる人材育成を目指し、様々な機関と連携し、文理融合の学びを展開する**必要
- ・ これまでのリソースや成果も生かして、**地域の課題を考えると**（ローカルな視点）が、**地球規模の課題を考えると**（グローバルな視点）に繋がっていると理解できるような**学び**も展開

文部科学省「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）」

■ 文理探究科【普通科・学際領域学科】（令和6年度開設）

学校主体の改編

2 文理探究科（学際領域学科）の概要

■本校の文理探究科 ～広がる学び 多彩な未来～

校外機関との連携

コーディネーターを活用し、新たな思考や新たな価値観、知的好奇心を育むために、大学や行政、研究機関、企業や社会貢献を行う団体等と連携した教育活動を実践

学際的に取り組む探究活動

探究のプロセスを体系的に学び、自らの興味関心に応じた探究活動や、地域に関する探究活動に学際的に取り組む授業を設定し、生徒個々が主体的に探究を実践

学科独自の開講科目

教科の専門知識を幅広く受講を可能とするとともに、実社会で活かすことができる「読解力」や「論理的思考力」「対話力」「表現力」等を磨くための科目を設置



主体性



協働性



課題解決能力



言語表現スキル



多様な認識

2 文理探究科（学際領域学科）の概要

■ 本校の文理探究科 ～広がる学び 多彩な未来～

開設から17年間で培った「総合人文コース」の取組

大学や行政、研究機関、企業・団体と連携した
文理を越えた探究活動

人文科学・社会科学・自然科学の
幅広い専門知識に関する学び

校外を学びのフィールドに

新たな思考・新たな価値観・知的好奇心を育てる

読解力・対話力・表現力を磨く

Society5.0でリーダーとして活躍できる生徒

探究のプロセスの実践を軸とした「学際的に取り組む探究学習」

Cross I

3つのコアトレーニング

- ・御影地域のエエところ
プレゼンテーション
- ・学問リサーチ
- ・国際的視野に立ったプチ探究

Cross I・II

地域探究プロジェクト

神戸大学文学部の大学生とも協働しながら取り組むプロジェクト型探究活動

Cross II

アカデミックリサーチ

自らの興味関心に応じた「研究」を、希望セミナー講座に分かれ、じっくり取り組む探究活動

Cross III

探究成果をカタチにする

- ・探究成果を論文にまとめる
- ・2年生の探究活動のメンター

「学際的に取り組む探究学習」を支える独自の科目

Creation I

STEAM講座一校外での実践、実社会での体験
ビルドアップレクチャー
(デザイン思考講座・データリテラシー向上講座 等)

Creation II

国際貢献活動にかかわるプロジェクト挑戦
ビルドアップレクチャー
(ファシリテーション講座・1on1傾聴講座・リーダー論講座)

クリティカルシンキングA・B

Society5.0を生き抜く生徒を育てるために「読解力」や「論理的思考力」、「対話力」、「表現力」等を磨くとともに、主体的に他者に伝えたり、他者と伝え合ったりすることで、自らの考えを発展させる体験を行う科目として設置する。

Creative Presentaiton

選んだテーマに関し、情報や自分の意見を加えて発表するスピーチセッションを英語で実施。発表だけでなく、司会や助言等の役割を行う経験を積む。

1年1学期～2学期

「出会う」
探究プロセスの基礎固め

1年3学期～2年1学期

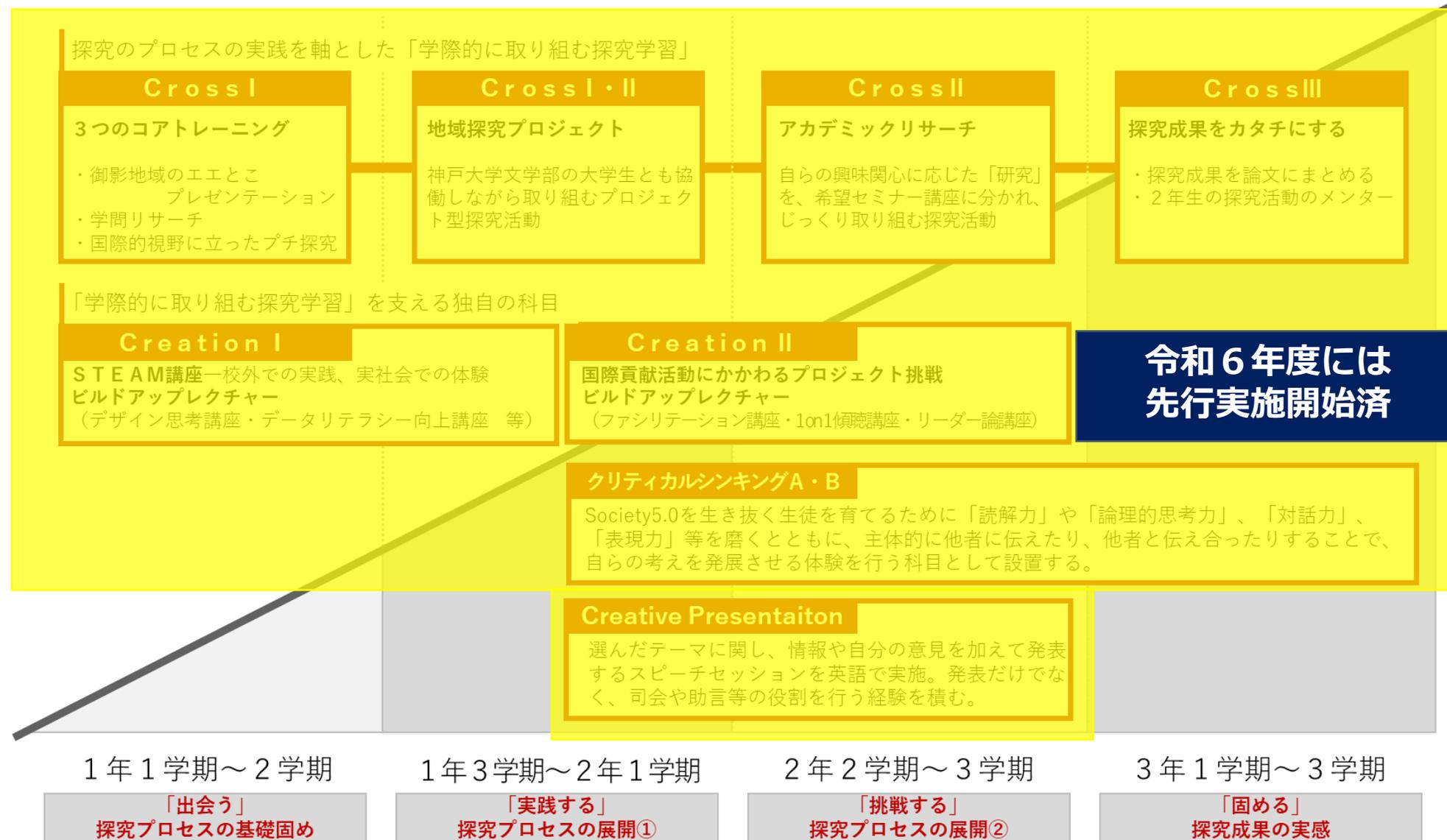
「実践する」
探究プロセスの展開①

2年2学期～3学期

「挑戦する」
探究プロセスの展開②

3年1学期～3学期

「固める」
探究成果の実感



2 文理探究科（学際領域学科）の概要

■ 探究のプロセスの実践を軸とした「学際的に取り組む探究学習」

1年1学期～2学期

「出会う」
探究プロセスの基礎固め

Cross I

3つのコアトレーニング

- ・御影地域のエエところ
プレゼンテーション
- ・学問リサーチ
- ・国際的視野に立ったプチ探究



神戸市とのコラボレーション

発表は久元神戸市長ら
神戸市幹部に向けて

1年3学期～2年1学期

「実践する」
探究プロセスの展開①

Cross I・II

地域探究プロジェクト

神戸大学文学部の大学生とも協働しながら取り組むプロジェクト型探究活動



神戸大学とのコラボレーション

大学生との協働探究を発表
発表は神戸大学にて

2年2学期～3学期

「挑戦する」
探究プロセスの展開②

Cross II

アカデミックリサーチ

自らの興味関心に応じた「研究」を、希望セミナー講座に分かれ、じっくり取り組む探究活動



近隣小学校とのコラボレーション

探究した成果を
近隣小学校にて実践

3年1学期～3学期

「固める」
探究成果の実感

Cross III

探究成果をカタチにする

- ・探究成果を論文にまとめる
- ・2年生の探究活動のメンター



他県高校とのコラボレーション

探究した成果を
岡山県の高校生と発表交流

2 文理探究科（学際領域学科）の概要

■ 文理探究科 独自科目 Creation I ・ Creation II



2 文理探究科（学際領域学科）の概要

■ 文理探究科 独自科目 Creation I ・ Creation II

1

選択STEAM講座

文理融合課題に関する体験講座（原則校外で実施）

2

国際貢献ワークショップ

国際貢献活動の実践講座（海外の方とコラボレーション）

3

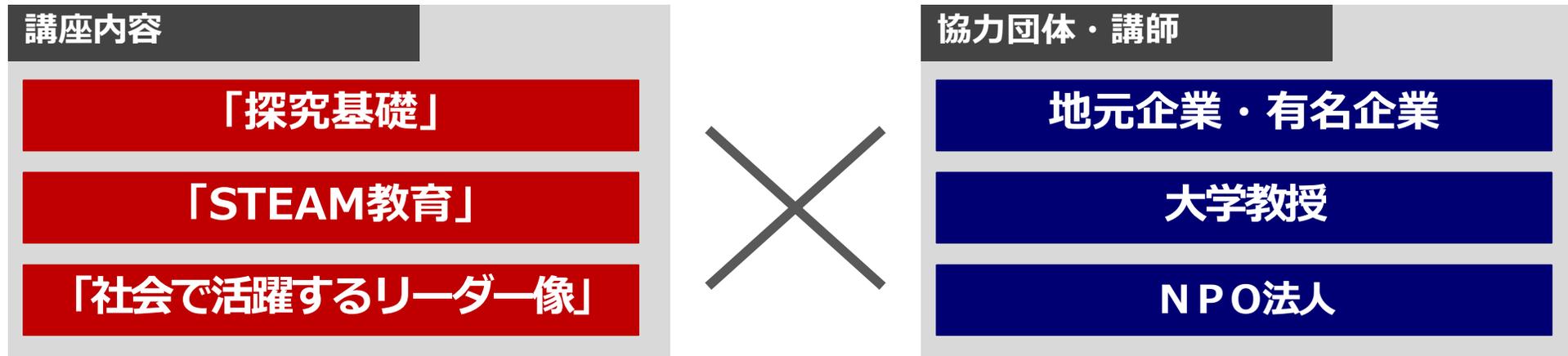
ビルドアップレクチャー

1 on 1 対話・傾聴講座
ファシリテーション講座 など

テーマに関する講義・ワークショップ（1年・2年を通じて実施）

2 文理探究科（学際領域学科）の概要

■ 文理探究科 独自科目 Creation I ・ Creation II



先行実施した講座に参加し、どのような力を磨きましたか。（実施後の受講生徒アンケート結果まとめ）

ゴールイメージとして、「**主体性・協調性・課題解決能力・言語表現スキル**」のいずれかを磨く講座展開を講師に依頼しており、ほぼすべての生徒が各講座の講師がイメージした通りの学びができています。

さらに、複数回答を可としているため、上記以外にも、「**物事を多面的に捉える力**」「**自己に対する理解**」「**発想力**」「**大きなゴールを小さく分けて考えること、段取り力、計画力**」「**立ちはだかる壁に楽しんで挑戦する力**」といった回答等、子どもたちの主体的な気づきが多々あったことも、講座の成果としてあげられる。

→ 「学校学校した学び（教員が組み立てる「授業」としての学び）」以外の学びの必要性 → **社会に開かれた教育課程の必要性**

3 コーディネーターと教員との協働



【学校経験者型】 竹中 敏浩

兵庫県立人と自然の博物館特任研究員。専門は地質学。県立三木東高校・北摂三田高校長を歴任、定年退職後、同博物館専門員を経て現職。博物館でも高校との博学連携や大学・研究機関等とのコーディネートを担当。武庫川女子大学と関西学院大学の非常勤講師。



【民間プロデューサー型】 東 善仁

合同会社ユブネ共同代表。神戸・奈良・島根を拠点とし、地域プロジェクトの企画運営を担う。神戸市西区の市民主導イベントの企画運営、長田区の市民ライター伴走、垂水区塩屋の空き家活用モデル事業、奈良県宇陀市の移住・起業支援事業等を担当。



【伴走型】 林 留里

立命館大学経営学研究科博士課程後期課程在学中。経営学部在学中にNPO法人Colorbathとのつながりから大阪府下の公立高校の探究活動に参加。オーストリアで開催された国際学会24th CINet Conferenceにて探究的な学びに関する発表を行う。「学び」と「経営」の融合について研究中。

3 コーディネーターと教員との協働

マネージャー（プロジェクトリーダー）



プレイヤー（コーディネーター）



事業全体のデザイン
ゴールに向けた事業マネジメント

→プレイヤーが活躍できる場をつくる

授業や講座のまとめ
一生徒に学びの実感を

→授業や講座の意味付けをし、学びの連関性に気づかせる

プレイヤーの補助

→非常勤コーディネーターのカバー業務



個別案件のデザイン
協働体制を構築、講座や会議を計画

→学校既存の価値観にとらわれず、独自性も大切に

「外」の空気を、学校の中に吹き込ませる

→生徒だけでなく教員にも社会のありようを実感をこめて伝える



マネージャーの補佐（壁打ち相手）

→マネージャーと事業を創発・共創し合う関係に



コンソーシアムの体制維持

運営指導委員会
進捗状況を報告し、運営に対し、指導助言をいただく第三者により構成された会議

カリキュラム開発会議
本校校長のリーダーシップのもと、外部の専門家を招聘し、本校の特色づくり委員会とタイアップしながら、新学科のカリキュラム等を協議し、新学科生の教育内容について方向性を打ち出すための会議

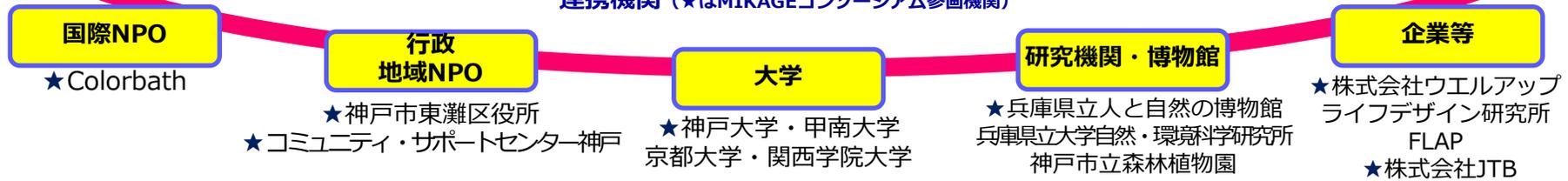
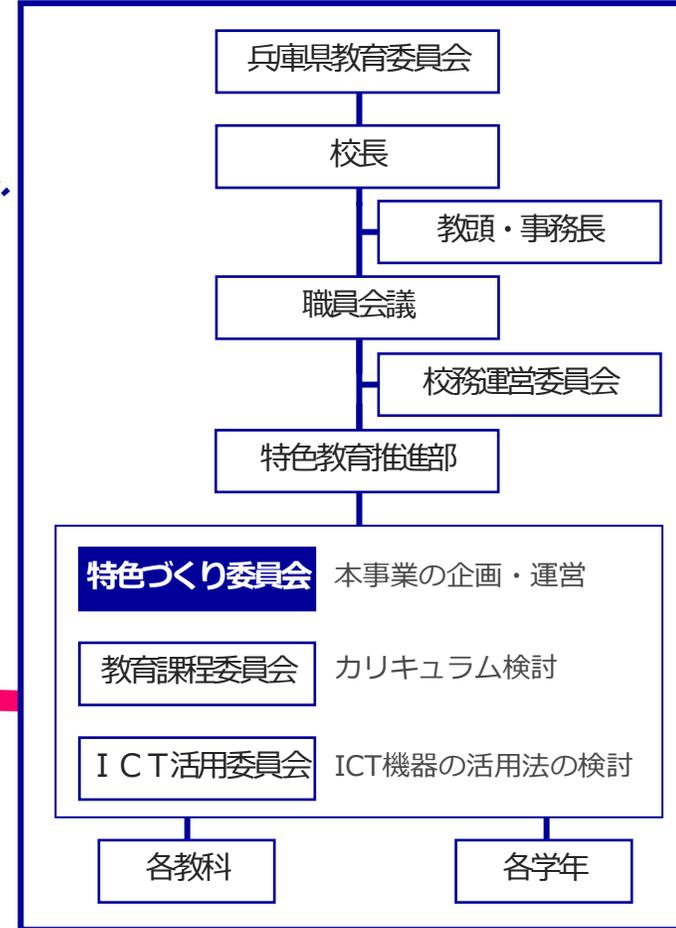
コンソーシアム会議
本校の教育活動を支援する団体等より、どのような協力が可能かを提案いただいたり、現状行っている活動や今後の活動に対して助言していただいたりする会議

コーディネーター

高等教育機関や研究機関等との連携依頼や連絡調整

地域課題に係る探究活動充実のための行政機関や企業等との連絡調整

コンソーシアム会議・カリキュラム開発会議等、連携機関等との会議運営



4 コンソーシアムの体制維持

■ 学校行事「グローバルコンシャスデイ」への招聘

総合人文コースの学びをその他のクラスにも広げることを考え、2年生全員を対象に3コマ実施。コンソーシアム団体に1講座ずつ担当していただき、12講座の講義とワークショップを展開。



4 コンソーシアムの体制維持

■ 事業指定終了後、予算が確保できない中での工夫（検討中）

1 スクラップ&ビルド

今後も続けていきたい取組への焦点化

2 他事業予算等の活用の検討

県教委事務局 高校教育課による事業等の積極的な活用の検討

3 既存ネットワークの活用の検討

管理機関や行政機関、同窓会等に継続的な支援の相談を実施



兵庫県立御影高等学校
文理探究科

生徒が発信しています

文理探究科 note

